姉妹霊園誕生記念号

平成19～20年冬季号　Vol.14

美原&美原東 ロイヤル・ニュース

MIHARA & MIHARA-HIGASHI ROYAL NEWS 2007−2008 WINTER Vol.14

○平成19年12月10日発行（年2回）○発行人／野瀬泰良 ○企画・編集／（株）関西メモワール ○発行／（宗）宙畍教美原霊園管理組合

美原東ロイヤルメモリアルパーク遂に開園

竣工検査が九月に完了

本年九月十四日金曜日、本霊園の姉妹霊園である美原東ロイヤルメモリアルパークが、羽曳野市埴生野に開園いたしました。

四月二十六日に太田知事から新霊園経営の許認可を戴きましたことは当霊園新聞の夏号でもお知らせしましたが、以後四ヶ月に渡って造成工事を進めて参りまして、九月十二日にようやく工事が完了し、「墓地埋葬法に基づく墓地工事の竣工検査」を受け、翌日には府から完了検査証を戴きました。

今回霊園として竣工したのは、新霊園の第一期工事であって、今回オープンした区画は、と言うなら僅か三百坪のミニ霊園に過ぎませんが、これから斜め後方（現在は竹林部分）に取得済みの敷地（七百六十坪）を第二期工事として拡張申請することになるでしょうし、無論周辺の土地を新たに入手できての話であり、且つ私達霊園の拡張を府が次々に認めて下さっての話ではありますが、その数年後には第三期拡張申請と言う様に、徐々に徐々に年月をかけて美原ロイヤルメモリアルパーク（二千百坪）に並ぶ面積の公園墓地へと変身させたいと願っております。

霊園設計のテーマはグレコ・ローマン

墓地使用申し込みが殺到しました「ウエストゾーン」の企画設計の理念を、美原東では更に一歩前に進めました。墓参が心身を癒すため、四季折々の花咲く公園を訪ね歩くのと同じ感覚になる様、環境や景観づくりにこだわりました。美原東ロイヤルのテーマは、グレコ・ローマン、即ち古代ギリシャ・ローマ風です。美原東ロイヤルの拡張工事が進むにつれ、霊園内のあちらこちらにグレコ・ローマンの列柱や、それをシンボライズしたものが見られることになるでしょう。

墓石は美原ロイヤルのウエスト・ゾーンで大好評だった丘カロート式のスタイルがデザインを更に新しくして建ち並ぶ予定です。無論こちらは完全にバリアーフリーの設計です。

送迎バスは両園を巡回

こちらの霊園を管理するのも、同じ宙畍教（ちゅうかいきょう）美原霊園管理組合です。送迎バスもこれまでの時刻表を変更することなく、美原ロイヤルと美原東を巡回で運行いたします。例えば松原駅前を出発したバスは、最初美原ロイヤルでお客様を降ろし、次に美原東でお客様を降ろして、次に北野田方面に帰られるお客を乗せて、再び美原に戻り、そこで同じく北野田方面に帰られるお客様を乗せて走ることになります。美原ロイヤルのお客様には以前よりご不便をおかけいたしますが、出来る限りスケジュールに狂いなく運行したいと思いますので、お客様にも時間通りの出発が出来ますようご協力のほど、そして管理組合の合理的運営にもどうかご理解のほどを宜しくお願いいたします。

将来は納骨堂を計画

将来の拡張を前提にして平成二十年の夏には画像のような三階建ての管理棟を建てたいと考えています。一階は事務所とお客様の休憩室。事務所の二階は法要施設、休憩室の上は吹き抜けです。三回には納骨堂をつくろうと計画中です。これも府に要申請施設ですが。

日差しがいっぱい入って明るくお参りができる納骨室にしたいと考えています。

平成二十年夏に完成予定の管理棟

明けましておめでとうございます

日本の正月は一年で最も行事の多い月だそうです。一月を正月と呼ぶのは「正」が年の初め、年の改まることに由来します。新年に初めて見る夢は「初夢」として、昔からことのほか大切にされて来ました。夢見でその年の吉凶を占う人もいます。それだけに年の初めに良い夢を見たいというのは、誰もが同じなのでございます。今年も皆様と共に、お仏壇やお墓の仕事を通して、世のため、人のため、何かお役に立つことができたらと思っています。

2008年（平成20年）元旦

ステータスアートの丸長グループ
代表　川下 眞二

～お墓のことなら～
丸長石材
〒547-0022 大阪市平野区瓜破東3丁目1-17
TEL.06(6709)4471 FAX.06(6790)5053
営業時間／AM9:00～PM.6:00（定休日:水曜日）

【シリーズ】太平記時代の河内を探訪する――

第五回

京を睨む風林火山の旗

野瀬泰良（のせたいら）
美原ロイヤルメモリアルパーク霊園施主
宗教法人　宙畍教　代表役員

二つの皇統の不和が始まる

太平記の時代とは我が国の皇室が分裂した南北朝時代をさすが、鎌倉時代の中期には既に皇統は二つに分かれていた。後深草天皇が弟君の亀山天皇に譲位され、亀山天皇がご実子の後宇多天皇に譲位された時、突如鎌倉幕府が干渉し、後深草のご実子を皇太子にしたことから皇統が二分したのだ。以後、兄の後深草の直系を持明院統と呼び、弟の亀山の直系を大覚寺統と呼ぶことに。但し両皇統は交互に即位されたので、表だって対立はなかった。しかしこのままでは、畏怖され尊敬されるべき「天皇」が、いつの日か、武家に操られる権威の無いものになりかねない。昔日の様に王権を復興し、公家、武家を共に支配したいと野心のある天皇がいつ現れてもおかしくはなかった。

そこに登場されたのが、大覚寺統の後醍醐天皇である。後醍醐天皇はかつて笠置山に籠もって幕府に反旗を翻されたものの、あえなく捕縛され、天皇の御位も剥奪され、隠岐へ流島処分となられた。一年後、足利尊氏、新田義貞、楠木正成、赤松円心、名和長年らが北条氏を裏切って天皇にお味方したので、劣勢を挽回され、幕府を滅ぼして都に戻られるまでの短い期間、北条に推されて御位に在ったのが持明院統の光厳天皇である。天皇に返り咲かれた後醍醐は二度目の即位であるから、旧来の慣習なら天皇の呼び名も改めるべきであったが、光厳天皇の在位そのものを無かったことにして済まされたので、持明院統側の誇りを大層傷つけることになった。二つの皇統が不和になっていくのは、後醍醐天皇のこうした持明院統への配慮の無さから始まったのではなかったか。

尊氏、天皇不在の皇居を焼き払う

建武政府への反逆者として流罪になったとは言え、朝廷の許しもなく大塔宮を処刑した足利尊氏、直義（ただよし）兄弟を懲らしめる為、錦の御旗を掲げる官軍を率いて関東に下った新田義貞であったが、逆に箱根で敵軍に大敗し、東海道を逃げ帰ることになった。彼らを追って畿内に攻め上った足利軍は大軍に膨れあがり、山崎から淀辺りで尊氏を待ち伏せする官軍の残党たちを、四国や播磨から呼び寄せた細川軍、赤松軍にあしらわせている間に難なく京に入った。足利尊氏は全国の武家を束ねるお墨付き（征夷大将軍職）が欲しい為、天皇との和睦を第一と考え、もしも大塔宮殺害の罪が許されるのなら、下手人、弟直義の首を差し出しても良いなどと、欺瞞の策なのか、それとも懺悔の本心なのか、分からぬことを吹聴しながらの京入城であったが、既に交渉相手の天皇は正成の意見を容れて皇族を引き連れ、叡山に逃げられた後であったから、彼の願望成就は露と消えた。落胆した尊氏は怒りにまかせて住む人のない皇居を焼き払うよう命じるのだった。不思議なことに足利軍はその後も用も無くなった筈の京に駐屯し続けた。実は尊氏は赤松円心などに入れ知恵され、天皇との交渉に見切りを付け、自分を武家の棟梁として公認してくれる別の皇族との交渉を企てていたのである。

昔は河内のメインストリートだった東高野街道。
中河内地区では昔の面影も少しは残っている。
（八尾市教興寺付近）

北畠の「風林火山」の軍旗

皇居が炎上する頃、足利軍を追って鈴鹿を越え、近江に入ったのは、北畠顕家（あきいえ）卿が率いる数万の蝦夷（えみし　往時の東北人の呼称）の大軍であった。北畠氏とは村上天皇を祖先にする名門の公家で、久我の領主とも、伊勢の国司とも言われる。古代中国の兵法家、孫子（そんし）は、軍隊の理想像を「その疾（はや）きこと風の如く、その徐（しずか）なること林の如し、侵掠（しんりゃく）すること火の如く、動かざること山の如し」と諭した。武田信玄の軍旗でも有名な「風林火山」の四句である。信玄の時代から二百年前、この軍旗を翳（かざ）し、赴任先の陸奥多賀城を出発して以来、行く手を阻む足利方の諸将を次々に破って、京までの長途を火の如く進軍したのが、往時まだ十代の若武者、北畠顕家であった。大阪の高級住宅地、北畠の地名は、二十一歳の若き命を戦場に散らしたこの顕家卿の墓が付近にあることに由来する。北畠軍が「風林火山」を軍旗にしたのは、後に天皇家の系譜を説いた「神皇正統記（じんのうしょうとうき）」を著す程の学識豊かな父、親房（ちかふさ）卿の発案であったに違いない。それを二百年後、再び武田軍が使用したのは、信玄が親房に劣らぬ兵法書「孫子」の愛読者であって、かつまた北畠顕家のファンでもあったのではないだろうか。そう言えば、武田家の家紋も、北畠家の家紋も同じ「割菱」紋である。

北畠軍は愛知川に到着するや、出来る限りの舟を借り集め、三日三晩琵琶湖をピストンして対岸の坂本に全軍を渡航させた。叡山でじっとしておられず、後醍醐天皇が坂本まで下山して北畠父子の到着を待っておられたのだ。日吉大社が官軍の総本陣とされ、直ちに新田、楠木などの諸将が集められ、御前での軍議が開かれた。新田軍からは足利軍を無傷で京に入城させた楠木勢を糾弾する声が上がった。だがそれを一蹴するように顕家卿は、足利の大軍を京に入れたのは見事な策だと、逆に正成を褒めちぎったのだ。

京は大消費都市であっても、それを賄う大生産都市ではない。よって市民の食糧、日用品の殆どは、周辺地域から賄わなければならない。足利の大軍を京の市中に閉じこめ、四方の出入り口を固めて物資の流入を止めれば、やがては兵糧が尽きて外に逃げ出さなければならない。それを待って敵を討てば、味方は損害軽微にして多大な戦果が得られる筈だ、と顕家卿は力説した。しかし新田軍から、陸奥からの長途の旅で、さぞお疲れではあろうが、兵馬は一旦休ませれば使いものにならぬ、と揶揄（やゆ）され、仕方なく顕家卿も正成も、三井寺方面に押し出してきた足利軍を直ちに叩くことに同意せざるを得なかった。足利軍は出鼻を挫かれ、京の市中へと退却した。

正成、尊氏の京に駐屯し続ける理由に気づく

官軍は深追いせず、京に敵軍を追い込み、四方から包囲する形で陣を張った。後は敵の兵糧が尽きるのを待つのみである。正成は叡山西麓の修学院に陣を張り、足利軍の動きを監視した。そこに思いがけない情報が飛び込んできた。怪しげな者が尊氏の陣と叡山延暦寺との間を頻繁に行き来していると言うのだ。天皇は坂本におられるのに、何用あって延暦寺なのか？と正成は首を傾げた。すると足利軍の雑兵達が、まもなく足利が官軍（国軍）となり、新田が賊軍（朝敵）となるのだ、と吹聴しているのが伝わってきた。正成は、戦を恐れ、今叡山に身を隠される御方の名を思い出し、尊氏が兵糧枯渇の危険を冒しても、大軍を京に駐屯し続ける理由に初めて気づいて顔色を失った。

「しまった、敵の交渉相手は光厳上皇様なのじゃ。天皇と不仲の上皇様から、院宣（いんぜん）を賜って幕府を興し、新田に組みする武将達を朝敵にする考えじゃ。それでは永遠に収拾のつかない大乱となろう。そんな身勝手な陰謀を許す訳には行かない。」

正成には己の推理を確かめる術も、味方に己の直感を説明する時間も無かった。ことは一刻を争う。上皇様の院宣が尊氏側の手に渡れば、最早どうにもならなくなるのだ。正成は馬に鞭当て、軍令を破って尊氏の本陣目指して駆けだした。部下の兵達も事情が分からぬまま主の後を追った。するとそれまで静まりかえっていた新田の陣や北畠の陣から、楠木の抜け駆けは許すまい、と堰を切ったように四方八方から市中に突入したのだ。足利軍は完全に不意を突かれ、京は全域が大混乱となった。

次回の予告　「桜井の別れ」

「青葉繁れる桜井の・・・」の唱歌でもお馴染みの、「太平記」の中で有名な感動シーンですが、今日ではその記述に囚われず、様々な資料や文献の研究がなされ、この楠木父子の涙の別れは、どうやら一大虚構であったと分かって来ました。では兵庫の戦場に急ぐ正成が何故、西国街道桜井に宮泊したのか、その真相に迫ることにいたしましょう。

温泉旅館相手の八百屋を静岡県一の食品スーパーにした先代から事業を継承し、日本国内には止まらず、香港、上海にまで事業を伸ばした国際流通グループ、ヤオハンの元代表和田一夫氏の奥様に寄稿をお願いしました。

ご先祖に護られて

和田貴美子

若かった頃、自分が白髪頭の老婆になることを、そして、遠からずご先祖様になるなんて想像出来たでしょうか。結婚して父母と離れて暮らし、久しぶりに会った父母の年老いた姿に、若かった父母もこうして歳を取っていくんだなあと、寂しい思いをしたことを思い出します。その父母の年を越してしまって紛れもない老人になりました。

つい最近までひたすら前ばかり見て生きて来ましたが、さすがに七十を過ぎると、人は皆間違いなく老人になり、やがて死ぬことも知っているけれど、それがどの様なものなのかは、その時が来るまで全く体験する事は出来ない事を改めて思い知らされる今日この頃です。

夫の両親も私の両親も共に信心深い人でした。私たち夫婦が出会い、結婚したのも共通の信仰と言う母体があってこその縁でした。義母※が晩年は病気がちで、入退院の繰り返しだったもので、私達夫婦はご先祖様を祀り、願を掛け、快癒を一所懸命に祈りました。父母の両親から三代前まで遡って系図を作り、ご先祖お一人お一人を招霊し、毎日時間を決めてお経を唱えました。義母は介護した家族の者たちに感謝しながら、やすらかに眠りにつきました。

さてその和田家の系図を調べたときのことですが、私は何年も前に生きていた人が、まるで其処に生きているような息吹が感じられ、とても懐かしく、時代や環境こそ違いますが、私たちと同じように生きておられたんだなあ、と実感したことがあるのです。そしてそのことを思うとき、この延長線上に目に見えない世界で永遠に生き通していく霊体としての自分があるわけなのですが、あの世の事は解らないから今世で生きているうちにして置かねばならぬこと、しておきたい事は何なのかを私は度々考えてみるのです。

先日の産経新聞の社説に「病人を世話するのが仕事の病院職員が、事情はあるにせよ、全盲の患者を病院の外に置き去りにした事件は、日本人の心の荒廃が抜き差しならぬところまで来た事を物語る。道徳と言う心棒がない戦後教育を今すぐ抜本的に変えなければ、この国はいずれ内部から崩壊してしまう。」と書かれてありました。わが母国をこの現状を憂いている人は大勢いらっしゃると思います。そして又、日本の未来のために一生懸命行動している人もいらっしゃることでしょう。小さな一粒だって芽を出し、実を結ぶのだから、何か生きているうちに祖国の未来のために行動しなければ、と切実に思うのです。しかし一人の老婆に一体何が出来るでしょうか?

美原ロイヤルを見学した和田一夫氏と野瀬霊園代表（本年9月）

思いもかけない家業の倒産と言う現実に直面してから、今年で早十年になります。この十年の尊い歳月が過ぎて思うことがあります。それは先祖供養の大切さです。平成九年八月　忘れもしないヤオハンが会社更生法を申請する一ヶ月前のことなのですが、奈良県に住まわれる信仰の先達（せんだち）のM先生から先祖供養の大切さを改めて教わり、ご指導を受けることになったのです。今までも義母のカツが何時も事あるごとに先祖供養を行っていましたから、嫁の私もそれは身についていた筈なのに、いつしか平常心ではなくなっていたと言うことなのでしょうか。それからは毎月先生の道場で先祖供養の儀式が行われ、信仰を同じくする同志の皆様が大勢お集まりくださり、和田家先祖の霊牌を書いて招霊し、心を込めて供養してくださったのです。

平成十一年十一月十一日を和田家再起の日と定め、それから二年余りもの間、奈良の同志の皆様は毎月欠かさず和田家の先祖供養の儀式を続けて下さいました。その間に私達はご縁があって福岡県の飯塚市に移住することとなり、主人はそこで自分の失敗の体験を人様に活かしていただくのだと、経営コンサルタント業や講演活動を開始することになりました。正に主人にすれば七十七歳からの再出発でした。そしてその日を記念して開催した主人の講演会に、地元の若者が参加して下さって、その人との出会いが今日に繋がって、主人の仕事が多くの方に支えられ、再び上海にも広がっている現状を思いますと、これこそがご先祖様の守護のお陰ではないかと思っています。

※義母・和田カツさん。NHK朝の連続ドラマ「おしん」のモデルだと言われる。

和田貴美子さんのプロフィール

一九三三年　浜松市に生まれる
浜松市立高女を経て
東京家政学院本科卒
一九五三年　和田一夫氏と結婚
ヤオハングループの発展に伴い日本、ブラジル、香港、上海に居住
一九九七年　ヤオハン会社更生法申請（後、イオングループの中で再生）
二〇〇〇年　福岡県飯塚市に移住
二〇〇三年　和田一夫氏国際経営塾を上海に開塾
二〇〇五年　本拠地を日本に移す
二〇〇七年　現在飯塚市に居住

十二月から管理事務所は水曜日が休館日となりました

各お墓の名義人（施主）様には葉書で十月中旬にお知らせしておりますが、皆様からお預かりする墓地年間管理料の効率的運用を図るために管理事務所を毎週水曜日休館にすることを平成十九年十二月十九日から実施することになりました。お花や線香がお売りできないことと、号地の分からないお客様にご案内できないことや管理料の受領などができないことなどお許し願えれば、皆様には水曜日であっても墓参にはお越し下さっていいのです。ただしお盆ウイークやお彼岸の前後の水曜日、祝日の水曜日には管理事務所を開館いたします。これは美原東でも、新しく管理棟が建っても同じでございます。皆様には何かとご不便をおかけしますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

(宗)宙畍教美原霊園管理組合

●送迎・花・代参予約
TEL.072-363-1114（水休）

●管理料請求などへのお問い合せ
TEL.072-363-9002（水休）

謹賀新年
平成20年 元旦

美原ロイヤルメモリアルパーク
美原東ロイヤルメモリアルパーク
霊園施主

宗教法人 宙畍教
宙界神社
〒587-0021　大阪府堺市美原区小平尾1059番地26

美原ロイヤル・美原東ロイヤルから年末年始のご案内

月	平成19年12月						平成20年1月					
日	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6
曜	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
管理事務所開館時間 美原ロイヤル	臨時開館	平常通り	平常通り	平常通り	平常通り	九時より三時	九時より三時	十時から三時	十時から三時	十時から三時	平常通り	平常通り
管理事務所開館時間 美原東	休館	平常通り	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館	平常通り	平常通り
墓地送迎バス		平常通り	平常通り	平常通り	平常通り	午前中		午前中	午前中	午前中	平常通り	平常通り

松竹梅の正月用墓花好評受付中

十二月二十五日（火）から一月六日（日）まで、お正月用の松竹梅を付けた墓花を管理棟にてご用意いたします。一対三千円です。

松竹梅付き墓花は電話予約でTEL072（363）1114

霊園から年末年始のご案内

霊園管理組合主催行事

第7回 春季彼岸供養会

■3月20日（祝）朝10時半から先祖供養堂にて

導師　真言宗　法願寺

霊園管理組合主催行事

第7回 佛乗寺永代供養墓

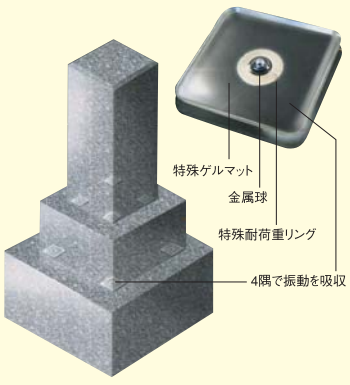
春季彼岸供養会 ■3月20日（祝）朝10時半から

導師　浄土真宗　佛乗寺

広告欄

追加彫り施工時に免震施工はいかがでしょう？

お墓はご先祖様の霊がやすまれるとても大切なもの、それが地震で倒壊したら大変です。しかもその時はお隣やお向かいのお墓まで傷つけます。現在、震度七の横揺れ程度までならなんとかお墓を倒壊から守る**「安震はかもり」**という、中央の金属リングの中に金属球が入った特殊ゲルマット（株式会社安震が特許を出願）を墓石接合部の四隅に取り付ける**免震施工**があります。墓石と墓石の間にゲルを挟むだけですので、ご先祖の魂が入った石を傷つける訳ではありません。無論、外からゲルや隙間が見えないようにコーキング（目地）施工をします。施工のお値段ですが、和式の三段墓なら二段×四隅で、免震ゲルを八ピース使用しますが、その場合、**標準施工費（ゲル代も入れて）六万円のところ、平成二十年の三月末まで、美原ロイヤルにて建墓されたお客様には報恩感謝の気持ちを込めて特別価格五万円（税込み）にて、安震はかもり正規代理店の浪石がお受け致します。**他所の霊園の場合は加えて出張費を実費でいただきます。大切なお墓を追加彫りなどで触らねばならない機会を利用してみてはいかがでしょう。



お問い合わせは
0120（74）1441浪石まで

福建省厦門の砕石場

石の裁断機

美原東のレリーフの飾りを製作

安震ゲルはかもり施工店
株式会社 浪石（なみせき）
〒587-0021 堺市美原区小平尾1059-26
TEL.072（363）3414（水休） 9:30～18:00